

# 第1回ワークショップ宿題

今回のワークショップまでに、以下の4つのアクションに取り組んでみてください。

これらの行動を通じて、OSPO 活動を「組織レベルの戦略」に進めていきましょう。

## 1: 学びと思考のふりかえり（じっくり考える）

目的：ワークで得た「自社の OSPO 戦略の核」を、一人ではなく複数人の視点で検証し、その妥当性や抜け漏れを確認してみましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
ワークふりかえり			今回作成したワークを自分で再度やってみましょう。その際に社内のデータを活用してブラッシュアップしてみましょう。
ワーク共有			今回作成したワーク結果をあなたのチームのマネージャーや同僚と共有してください。
フィードバック収集			共有したワーク結果を以下の観点でフィードバックを求めてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>方針の妥当性</b>：「自社の OSS 活用の目的は本当にこれで合っているか？」</li><li>・ <b>見落とし</b>：「自社のビジネスモデル特有のリスクや課題はないか？」</li></ul>
ガイド読み込み			テンプレートの読み合わせをしてみましょう。読書会をしてみましょう。時間と読む章を決めて一緒に読んで自社だったらどうか？という観点で感想戦をしてみてください。

## 2: ステークホルダーへのエンゲージメント（実際に動く）

目的：ワークで特定したキーパーソンと対話することで、OSPO 活動に必要な社内連携の「橋渡し」を始めましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
キーパーソン特定と声掛け			ワークブックの「第 2 章」で特定した、 <b>法務、セキュリティ、経営層、または他の部門のキーパーソン</b> を再確認して声をかけてみましょう。
共有の開始			上記のキーパーソンから最低 1~2 名を選び、短時間の会議を設定して響くメッセージを元に話をしてみてください。ワーク成果にフィードバックをもらうのもアリです。

## 3: OSPO 体制の初期構築（準備を固める）

目的：OSPO 活動に必要な体制を整えていきましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
担当者の確定			今回ワークで必要だと感じた役割に対して、適任と感じる人をお願いしましょう。例えば、技術、法務、セキュリティの各専門分野の担当者（または窓口役）など。
体制の整備			承諾してくれた担当者の連絡先一覧を整備しましょう。

## 4: OSPO ドキュメントのプロトタイプ作成（手を動かす）

目的：スターターキットを基に、ドキュメントを書き始めましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
プロトタイプの作成			テンプレートの内容を確認して、ワーク結果を元にカスタマイズして書き出しましょう。

## 第 2 回にむけた予習

第 2 回ワークショップで扱うテーマは「ライセンス」です。

オープンソースライセンスの概要を理解するため、「**オープンソースソフトウェア ライセンス遵守に関する一般公衆ガイド** Open Source Software License Compliance General Public Guide」(The Linux Foundation OpenChain Project 発行) を読んでみましょう。

[https://lists.openchainproject.org/g/main/attachment/2312/1/OSSLicense\\_GPG\\_v.1.pdf](https://lists.openchainproject.org/g/main/attachment/2312/1/OSSLicense_GPG_v.1.pdf)

### 進め方：

- 自分で読んでみて理解できなかったポイントについて、チームで話し合ってみましょう。チームで解決できなかった点は、次回のワークショップの際に、メンターを含めた一緒にワークしていくメンバーに質問してみましょう。
- 本ドキュメントの中で特に重要だと感じたポイントについて、チームで意見交換してみましょう。第 1 回ワークショップで体験した「言語化する」という行為を自発的におこなってみましょう。
- 自社のオープンソースプログラムに取り入れたいポイントについて、OSPO ドキュメントに追加してみましょう。